

輝 SONODA SPORTS PRESS

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部
〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1

学部・学科
人間健康学部 総合健康学科 人間教育学部 児童教育学科
人間看護学科 短期大学部 生活文化学科
食物栄養学科 幼児教育学科

お問い合わせ先 スポーツ振興センター
TEL 06-7507-1813 FAX 06-7507-1814
URL <http://www.sonoda-u.ac.jp/sports/>
instagram sonodasp

**異例のシーズンも
全員で戦い抜いた**

2020年度シーズンのソフトボール部は9月になってようやく関西学生女子チャンピオンカップで公式戦を迎えた。「全体的にプレーが硬く、思うような試合展開ができませんでした」と、主将の下村歩実(総合健康学科4年)は振り返るが、個々の技術や能力の高さで勝ち進んだ。

決勝は横田瑞希(同学科4年)が先発。秋豆朱音(同学科4年)が継投し、小西彩未(同学科3年)や保谷蓮(同学科1年)ら打撃陣も活躍して快勝。異例のシーズンに貴重な栄冠をつかんだ。

11月に行われた全国大学選抜選手権(インカレ代



替)は初戦で黒星を喫した。2回に先制し、3回に逆転された後も5回に同点に追いつくなど、しぶとく戦ったが、1点差に泣いた。

下村は「打ち勝てるチームを作り、見ている人に勇気を与えられるプレーをしよう」と戦いました。結果で恩返しすることはできませんでしたと悔しがったが、「大会が行われたこと、このチームで最後まで戦い抜けたことはよかったです」と感謝を忘れなかつた。

関西学生女子チャンピオンカップ

ソフトボール部

栄冠

勝ち取る

今以上の練習で日本へ

2020年度は新型コロナウイルスの影響で学生スポーツも様々な規制・自粛・感染対策を迫られた。日本一を目指すチームにとって、大学グラウンドでの練習や対外試合、遠征の制限は厳しく、その中でも「試合感覚をつかんだり、レベルの高いソフトボールをするにはどうすればいいかを考えて練習していました(下村主将)」という。

新チームには、日本一へ勝ち上がるために、今まで以上の練習に取り組む覚悟が必要になる。



大会成績

◆関西学生女子チャンピオンカップ

▽1回戦 園田学園女子学 〇15-0 兵衛大・大府大

▽2回戦 園田学園女子学 〇5-2 龍谷大

▽準決勝 園田学園女子学 〇2-1 立命館大

▽決勝 園田学園女子学 〇7-4 神戸親和女大

◆全国大学選抜女子選手権

▽1回戦 園田学園女子学 〇3-4 東京女体大

◆兵庫県大学選手権

▽1回戦 園田学園女子学 〇6-2 武庫川女大

▽決勝 園田学園女子学 〇3-1 神戸親和女大

◆2020年度中止の主要大会

関西学生春季リーグ戦
西日本インカレ
日本インカレ
関西学生秋季リーグ戦



SUPER DOLPHINS

関西4位

バスケットボール部

交流大会女子1部

「全員バスケット」貫いた

2020年10月には関西女子学生交流大会が開幕。初戦は快勝したが、準決勝で敗退。3位決定戦も全員で戦うバスケットを貫いたものの、勝ち星をつかめなかった。

新型コロナウイルスの影響でシーズン前半の主要大会が相次いで中止・延期になり、バスケットボール部が初戦を迎えたのは9月開催の兵庫県総合選手権だった。初戦の関学大戦は激しい攻防の末に1点差で勝利をつかんだ。

決勝の武庫川女大戦も前半を終えて、園田学園女子大学がわずかにリードする39-38と伯仲した展開。しかし第3ピリオドから突き放され、善戦及ばず、タイトルには届かなかった。



新型コロナウイルスの影響で様々なプレイングを見たり、戦ったりしたことで自身の向上心がさらに強くなったと感じました」と西野。主将として、「元気に戦えたのは選手一人ひとりが心がけた勝つための準備と指導者をはじめとするサポートがあつたから」とチームの強い結束を噛み締めた。

コロナ禍で様々な我慢や工夫が求められたシーズンだったが、得られたものも少なくない。新年度に向けて、テニス部は「元気！笑顔！泥くさく！大声！粘る！」をモットーに掲げて練習に励み、結果につなげようと呼びかけている。

大会成績

◆兵庫県総合選手権

園田学園女子大学

▽1回戦 〇72-71 関学大

▽決勝 〇69-81 武庫川女大

◆関西学生交流大会(1部)

園田学園女子大学

▽1回戦 〇74-58 関学大

▽準決勝 〇60-105 大体大

▽3位決定戦 〇50-81 武庫川女大

〈個人表彰〉

優秀選手賞 中村 涼

◆2020年度中止の主要大会

全関西学生選手権大会
全関西学生選手権大会
西日本学生選手権大会
関西学生秋季リーグ戦
関西女子学生秋季トーナメント大会

テニス部

インカレ

西野・東谷組 ベスト8

新年度は「元気！笑顔！泥くさく！大声！粘る！」

2020年10月26日開幕の関西学生選手権(本戦)はテニス部にとって約8カ月ぶりの公式戦だった。試合ができる喜びを感じながらプレーし、シングルスでは東谷和(児童教育学科3年)と櫻井ゆき(総合健康学科2年)が3回戦進出、ダブルスでは西野さくら(総合健康学科4年)・東谷組がベスト8の成績を残した。

同年11月に開催された全日本学生選手権には西野、東谷、櫻井が出場した。シングルスは上位へ勝ち上がれなかったが、ダブルスの西野・東谷組は準々決勝に進出。ベスト8に入った。

「コートに立つて試合を行うことができ、全国の選手の多様なプレーを見たり、戦ったりすることで自身の向上心がさらに強くなったと感じました」と西野。主将として、「元気に戦えたのは選手一人ひとりが心がけた勝つための準備と指導者をはじめとするサポートがあつたから」とチームの強い結束を噛み締めた。

コロナ禍で様々な我慢や工夫が求められたシーズンだったが、得られたものも少なくない。新年度に向けて、テニス部は「元気！笑顔！泥くさく！大声！粘る！」をモットーに掲げて練習に励み、結果につなげようと呼びかけている。



ダブルスで活躍した西野(右)と東谷



来季期待のひとり、宮崎明莉(総合健康学科2年)



インカレ出場した櫻井

大会成績

◆関西学生テニス選手権

シングルス

▽1回戦 櫻井〇2-0 石川(関学大)

西野〇2-1 浦上(天教大)

宮崎〇2-0 横井(天教大)

東谷〇2-1 佐藤(龍谷大)

▽2回戦 櫻井〇2-1 堺(姫路大)

西野〇2-2 清水(天教大)

宮崎〇0-2 伊藤(立命館大)

東谷〇2-0 高嶋(立命館大)

▽3回戦 櫻井〇0-2 大野(関西大)

東谷〇0-2 中塚(関西大)

ダブルス

▽1回戦 西野・東谷〇2-0 永岡・高垣(園田学園女子学)

▽2回戦 西野・東谷〇2-0 明河・吉田(関学大)

準々決勝

◆全日本学生選手権

◆ダブルス

▽1回戦 西野〇2-1 柳澤(金沢大)

櫻井〇0-2 大津(慶應大)

▽2回戦 東谷〇1-2 古賀(立命館大)

西野〇0-2 倉島(立教大)

ダブルス

▽2回戦 西野・東谷〇2-1 山崎・吉川(垂大)

▽3回戦 西野・東谷〇2-0 伊藤・中島(垂大)

準々決勝

西野・東谷〇0-2 日暮・清水(駒大)



年度関西学生秋季リーグ戦

自信つかんだリーグ戦

バレーボールの2020年度関西学生秋季リーグ戦女子1部は10月11月にかけて行われ、園田学...



敗で11位となった。初戦は最終セット15-10で粘り勝ち。第4戦も接戦を制した。黒星が重なったが、フルセットの粘りや一矢報いる意地を要所に見せ、選手たちは「異例のリーグ戦になっただけで、どんな状況でも私たちが戦えるんだ」という自信を持つことができた」と成長を実感していた。

笑勝time

新チームは、新主将の加藤萌(総合健康学科3年)を中心に始動した。勝って結果を残すこと、全員が笑ってこのチームを終えることを意味する『笑勝time』を掲げて、「勝つには、笑って終わるにはどうすればいいか、全員で考え、実行し、目標達成できるように」と果敢に挑むシーズンにするつもりだ。

奮闘! 関西学生秋季リーグ女子バレーボール

陸上競技部

関西学生陸上好女子総合2位



いに乗り、対校得点争いで過去最高に並ぶ女子総合2位となった。短距離でトリプル入賞した種目が目立ち、100mでは藤原沙耶(総合健康学科4年)が4位、三浦愛華(同学科1年)が6位、平田未来(同学科4年)が7位に。400mでは後藤奈緒(児童教育学科4年)が4...



2020年度の関西学生陸上競技対校選手権は新型コロナウイルス感染症の影響で5月から10月にスライドして開催された。チームは大会初日の走高跳で浦島美憂(総合健康学科4年)が3位、砲丸投で岩木理菜(児童教育学科4年)が2位に入って勢いに乗った。

コロナに負けず自己新記録続出



関西学生やり投げ2位の栗原

位、安田明日翔(総合健康学科3年)が6位、栗谷瑞希(食物栄養学科4年)が7位。400mハードルでは齊藤朋佳(総合健康学科2年)が2位、横田華恋(食物栄養学科4年)が3位、安達真咲(総合健康学科4年)が6位に入賞した。両リレーでも上位入賞した短距離陣に対し、フィールド陣も奮闘。冒頭の2選手のほか、棒高跳の黒田愛香(同学科3年)、円盤投の兒島怜奈(児童教育...



4x400mリレーの乗原千賀子(総合健康学科3年)が「メダル」を獲得した。

主将としてチームをまとめた後藤は「自己ベストや目標を達成した仲間から刺激をもらい、チーム内で好循環が生まれたことが印象的でした」と振り返った。チームは新年度も部員100人規模になる。「インカレ戦線を全員で戦い抜く」「全員が自己ベスト更新を目指す」のスローガンの下、成長と上位を追いかける。

日本インカレも力走



陸上の日本選手権は2020年9月に新潟で開催され、園田学女子大学勢は100mハードルの古西清乃(総合健康学科1年)と4x100mリレーが入賞した。コロナ禍にあっても、チームは分散練習など対策を徹底し、目標を持ち続けた。日々自己成長を目指す全員が競技環境や応援への感謝を再確認したシーズンだった。



100mハードルの古西清乃(総合健康学科1年)と4x100mリレーが入賞した。コロナ禍にあっても、チームは分散練習など対策を徹底し、目標を持ち続けた。日々自己成長を目指す全員が競技環境や応援への感謝を再確認したシーズンだった。

全公式戦中止の剣道部 剣道は「人間形成の道」



新型コロナウイルスの影響により、剣道部の2020年度の公式戦はすべて中止となった。稽古の成果を発揮する機会がなくなったが、選手たちは「剣道は『人間形成の道』でもある」と考え、フェイスシールドを着用するなどして稽古に集中。技術面も人間としても成長できるように日々精進してきた。

来年度も感染症対策下での競技活動になるだろう。「どんな状況でも勝ち上がれる力を付ける工夫をし、心を一つにして稽古に励みます」と山田悠帆里(総合健康学科3年)。大会の再開に備えて、日々の稽古で心身を磨くしかない。

関西学生女子駅伝を振り返って 駅伝部



「個人の目標を達成した選手もいましたが、チームとしては持っている力を発揮できず、悔いの残る結果でした。来年は全員が目標を達成し、良い成績を残せるよう日々の練習を頑張ります」

「チーム一丸で」軟式野球部 森田彩音(総合健康学科3年) 「感染予防を徹底して活動を再開することができ、楽しく野球をしています。新年度は関西リーグ1位、全国ベスト8が目標。こんな時だからこそチーム一丸で頑張ります」

大会成績

- ◆日本学生対校選手権
▽100mハードル④古西13秒82
▽4x100mリレー⑤藤原 三浦 古西 平田46秒28
◆関西学生女子駅伝
④1時間57分21秒
(山本、梅田、一宮、藤野、岡橋、上本)
◆関西学生対校選手権
▽100m④藤原12秒03⑥三浦12秒18⑦平田12秒19⑧藤原12秒20⑨門脇24秒99⑩藤原25秒17⑪400m④後藤55秒85⑥安田56秒21⑦栗谷56秒71⑧古西80秒00⑨安藤12秒01⑩100mハードル③古西13秒99④400mハードル②齊藤1分00秒36⑤横田1分00秒79⑥安達1分02秒54⑦100mリレー③藤原 門脇 廣瀬 平田46秒44④4x400mリレー②横田 後藤 栗谷 安田3分43秒22③走高跳③浦島1m69④棒高跳③黒田3m40⑤平田3m40⑥走幅跳⑥佐伯5m60⑦砲丸投②岩木1m93⑦永井12m41⑧円盤投③兒島36m70⑦やり投げ②栗原50m13⑦永井43m92⑦七種競技⑧石橋429.7点

2ペアがブロック優勝

関西学生オープン交流戦で濱尾真衣(食物栄養学科2年)・松本わかな(同学科1年)組が女子ダブルスのFブロックを、また、水谷杏(人間看護学科1年)・松本愛加(食物栄養学科1年)組もGブロックを全勝で制した。新人戦では上位へ進めず、主将の濱尾は「春の大会に向けて体を強くし、部員で力を合わせて頑張ります」と成長を誓っている。



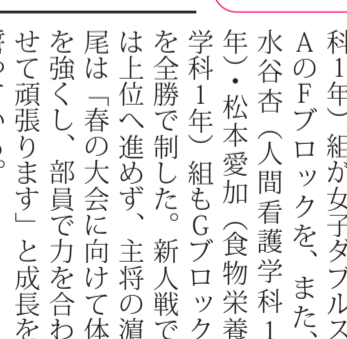
「来季に期待」 ラクロス部 山田穂香(総合健康学科4年) 「活動休止中はオンラインでミーティングなどを行っていました。一部昇格を後輩たちに託し、プレーで恩返ししてほしいと思います」



「来季に期待」 ラクロス部 山田穂香(総合健康学科4年) 「活動休止中はオンラインでミーティングなどを行っていました。一部昇格を後輩たちに託し、プレーで恩返ししてほしいと思います」



「来季に期待」 バスケットボール部 中村涼さん(総合健康学科 兵庫県・須磨学園高等学校出身 地方公務員)



「来季に期待」 バレーボール部 畑岡みなみさん(総合健康学科(看護) 兵庫県立姫路南高等学校出身 兵庫県教育委員会)



「来季に期待」 バレーボール部 萩口未紗さん(児童教育学科 岡山県・興譲館高等学校出身 刑務官)